

# 創業200周年の角文 どういう会社？

材木商として江戸時代に創業以来、地域密着のスタンスを貫く角文。国内初の一般定期借地権付き分譲マンションなど、新しいビジネスモデルもつくり上げました。創業者から脈々と受け継がれる「進取の精神」と「不易流行」を理念に、地域貢献を軸にした環境保全活動などにも注力。今年で創業200周年の節目を迎えます。

角文株式会社 代表取締役社長  
鈴木文三郎さん

「西三河のみなさんと共に歩み続け、創業200年を迎えました。豊かで夢のある地域の創造を担う企業として、これからも柔軟な発想と行動力で新しいことに取り組みたいです」



地域との絆を大切に  
未来を見据えて挑戦する

「角文」は、西三河に根ざして事業を展開する総合建設企業です。1823年に木材の販売と建築を請け負う「角屋」として創業。江戸から明治へと目まぐるしく変わる時代の潮流を敏感に捉え、学校や町屋づ

くりで礎を築きました。初代の鈴木文助が「角屋の文助」を略した「かどぶん」の通称で呼ばれていたことから、いつしか屋号も「角文材木店」に。

この地域にも甚大な被害をもたらした1959年の伊勢湾台風の際には、地元のために刈谷市から応急仮設住宅130戸を受注しました。「先代である父の孝平は、九州で営

林署に務めていた実兄に応援を求め、職人たちと共に長靴を脱ぐ暇もないほど、不眠不休で復興にあたったそうです」と、角文を継承した鈴木文三郎さんは当時の様子を語ります。これが転機となり、翌年に角文建設を設立。材木店から総合建設グループへと舵を切りました。角文建設は道路・橋梁などの公共工事を中心でしたが、角文材木店の流れを汲む

すまいの角文は1973年に分譲住宅、1983年から分譲マンション事業を開始。1993年には国内初の一般定期借地権付き分譲マンションを打ち出し、全国的に注目を集めます。「土地を借りて活用する定期借地権付きなら、広くてハイグレードな物件をお値打ちに提供できるため、分譲マンションに最適なんです」とのこと。

2000年には自然との共生をテーマにした分譲マンション「エルグランド刈谷」、2006年にはビオトープ付分譲マンション「マンサール白山」を販売するなど、未来を見据えた試みにも積極的に取り組んできました。2009年7月には両社を合併。刈谷ハイウェイオアシス、刈谷市歴史博物館、新立子子育て支援センタ

1、刈谷市庁舎、名古屋岡崎線の道路改良など、さまざまな建設工事などを通して地域の暮らしを支えています。



7.全国から注目を集めた「刈谷ハイウェイオアシス」のデラックストイレ 8.木材を多用したあたたかな雰囲気が特徴の「新立子中央子育て支援センター」 9.住・商・職・育がひとつになったJR安城駅から徒歩7分の「DENSITY」

複合的なまちづくりや  
社会貢献活動も精力的に

少子高齢化が進むなか、住居を核に日々の暮らしに必要な店舗や施設を集約したコンパクトシティのニーズが高まっていくと考え、近年では複合的なまちづくりにも注力。銀座地区の市有地を再開発して誕生した「刈谷銀座ツリープラス」、JR安城駅から徒歩7分の新しいまち「DEN CITY」は、角文が代表企業となつて手がけたものです。

角文では、環境保全活動にも積極的に取り組んできました。2003年の周年記念事業で、本社敷地内にビオトープをつくって地域に開放したのを皮切りに、2005年からは富士松南小学校の児童たちとホテル幼虫放流会を実施。また、放置されていた豊田市足助町の山林約240haを購入し、水源の森づくり活動に

も着手しました。2008年からは、本社前を流れる逢妻川で社員が先生となつて地元小学校の児童とともに川の環境学習を行っています。「小4の時に川の環境学習に参加した小学生が成長し、角文の社員としての川の環境学習で先生役を務めるようになりました」と鈴木社長は目を細めます。

日間にはわたって開催。これまで買い集めた原画約200点を一堂に展示します。「障がいがある人のなかには優れた感性の持ち主、いわば天才もいます。一人一人のアーティストとしての才能や感性をたくさんの方に知っていただきたい」と鈴木社長。独創的なタッチ、鮮やかな色使いなど、魅力あふれるアティックアートの世界に触れてみませんか。



1.昭和初期に自宅を新築。自宅兼事務所 2.刈谷市桜町周辺 3.1958年に建設業登録を取得し、建設業を開始。写真は「角文建設」の看板を掲げた伊藤ビル 4.現在の角文本社ビル



5.豊田市足助町でのCSR活動 6.ふるさとの川を大切に育んでいってほしいという思いのもと、毎年6月に逢妻川で自然体験型の環境学習を実施

2023年度中の着工を目指し、愛知県産木材を活用した木造の第2本社ビルの建設計画も進行中です。「建設地の泉田はお店が少ないため、1階にカフェや惣菜店などを入れ、地域のみなさんも利用できる場にした」と考えています。このこと。さらに社会貢献の一環として、2013年からアティックアートの活動にも参加。障がいのある人が創作した絵画を買い取り、自立を支援してきました。角文創業200周年記念事業として、今年8月に刈谷市美術館で「アティックアート美術展」を6

KAKUBUN 角文株式会社  
本社 刈谷市泉田町古和井1  
電話 0566-22-1811 (代表)

角文創業200周年記念  
所蔵絵画を約200点展示  
期間 8月1日(火)~8月6日(日)  
場所 刈谷市美術館(刈谷市住吉町4-5)  
料金 入場無料  
原画をもとに、今まで作成した卓上カレンダーなどのグッズも同時に展示します

詳しい情報はコチラ